

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 3 部門第 3 区分
 【発行日】平成 25 年 5 月 30 日 (2013.5.30)

【公開番号】特開 2013-64156 (P2013-64156A)
 【公開日】平成 25 年 4 月 11 日 (2013.4.11)
 【年通号数】公開・登録公報 2013-017
 【出願番号】特願 2012-284268 (P2012-284268)
 【国際特許分類】

C 0 8 G 63/183 (2006.01)

D 0 1 F 6/92 (2006.01)

【 F I 】

C 0 8 G 63/183

D 0 1 F 6/92 3 0 1 K

【手続補正書】
 【提出日】平成 25 年 4 月 4 日 (2013.4.4)
 【手続補正 1】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】0 0 6 2
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【 0 0 6 2 】

実施例 2 ~ 5

リン化合物を添加する時期、添加量を変更した以外は実施例 1 と同様にポリエステルを重合、溶融紡糸した。リン化合物の反応系への添加は、所定の攪拌トルクの 85% となった時点（減圧を開始してから約 2 時間 30 ~ 40 分の時点）で、ポリエチレンテレフタレートシートを射出成形して作成した厚さ 0.2 mm、内容積 500 cm³ の容器にポリマーにリン化合物を詰めて、反応缶上部より添加した。実施例 2 では、わずかに結晶性、色調が劣ったが、それ以外では得られたポリマーは、結晶性、色調、熱安定性に優れていた。また、実施例 5 では、わずかに紡糸時の口金孔周辺の堆積物がみられ、実施例 2、5 ではわずかに糸切れが認められたが、操業上問題ないレベルであった。

【手続補正 2】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】0 0 6 3
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【 0 0 6 3 】

実施例 6 ~ 7

実施例 2、5 で得られたペレットを、150 3 時間真空乾燥した後、固相重合を行った。固相重合は、下部から不活性ガスなどが流通できる構造を持った管状の装置を用いて、100 Pa の減圧下、225 で 12 時間実施した。この固相重合チップを実施例 1 と同様にポリエステルの重合、溶融紡糸した。実施例 6 ~ 7 では、わずかに結晶性、色調が劣ったが、それ以外では得られたポリマーは、結晶性、色調、熱安定性に優れていた。また、紡糸時の口金孔周辺の堆積物及び糸切れはほとんど認められなかった。